



**第37号**  
 2023(令和5)年6月10日発行  
 発行・編集  
 奈良県立檀原高等学校檀友会  
 〒634-0823 奈良県檀原市北越智町282番地  
 TEL : 0744-27-8282  
 印刷  
 (株)サラト



### 創立50周年に向けて

檀友会会長 吉藤 行二 (1期生)

檀原高校同窓生の皆様、健やかにお過ごしのことと拝察致します。日頃は本会の運営・活動にご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年はおよそ3年にも及ぶ新型コロナウイルス感染症の影響や、かなしい愚かな戦争、衝撃の事件など国内外で報じられる話題はつらく重く閉塞感漂うニュースが多い中ではありましたが、「サッカーワールドカップカタール2022」では久しぶりに日本国

中が歓喜と笑顔に包まれました。今年はさらに明るいニュースがたくさん触れられることを心より願いたいものです。

さて、これまで皆様に発送して参りました同窓会会報紙「檀友」は、この度おかげさまで第37号の発行を迎えることになりました。卒業生も約17,000人を数える中、紙面の充実にも苦慮しながら何とか継続を果たして参りました。しかしながら年々増加する発行費が課題となつてきておりま

す。賛助会費もお願いする中、同窓生の活躍寄稿や広告掲載も多くはなく、悩むこともあります。そこで、令和6年(2024年)檀原高校がいよいよ創立50年を迎えるにあたり、この大切な節目に以前から課題になっていた「檀友会ホームページ」について協議をし、開設する運びとなりました。ホームページはまだまだ内容の充実とまではいきませんが見やすいコンテンツを目指し、将来的には同窓会報「檀友」の郵送をやめてこのウェブサイトで情報を発信していくと考えております。

現在、創立50周年記念の事業は、先生方や在校生と協力しながら思い出に残る行事にすべく準備を進

めており、同窓の先輩・後輩の絆をいっそう強めていくきっかけになればと願っております。

皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い致します。

ここに、祝・創立50周年に向けての機運の醸成と会員相互の交流がさらに深まることを願い、「檀友会ホームページ」開設報告と挨拶と致します。



「檀友会ホームページ」はこのQRコードをご利用ください。



### ご挨拶

校長 吉田 敦

北越智の地に初夏の爽やかな風が吹き抜け、校長室には、木々からのウグイスの鳴き声と、教室からの生徒たちの笑い声が、仲の良い友だちどうしの会話のように聞こえてきます。

新しい年度を迎え、檀友会会員の皆様におかれましては、お健やかにお過ごしのことと存じます。本校は今年322名の新入生を迎え入れ、無事令和5年度の活動をス

タートさせています。私も、昨年度に引き続き勤めさせて頂くこととなり、大きな喜びを感じながら心を新たに日々業務に取り組んでいます。昨年度同様、皆様のご指導とご鞭撻を何卒よろしくお願いいたします。

さて、3年以上にわたり猛威をふるった新型コロナウイルスの感染状況については、ようやく収束の気配を見せ始めています。学校

現場としましては、気を緩めることなく引き続き適切な対応を続けていきたいと考えていますが、一方では、この3年間の悪戦苦闘の経験をこれからの教育活動にどう生かしていくかが問われてくるであろうと思われま。抽象的な表現にはなつてしましますが、中止や縮小を余儀なくされた諸行事をはじめとするすべての学校活動を、ウイルス出現以前の形に戻すだけにとどまらない、学校教育の新たな可能性を見据えたものに再構築することが必要であると思っております。期せずして、檀原高校は来年度、令和6年度に学校創立

50周年を迎えます。この大きな節目に向け、檀高半世紀の歩みに思いをはせるとともに、築かれた伝統をしっかりと受け継ぎながら、未来に続く新しい教育活動を創造することが、我々教職員に課せられた使命と考えます。あらためて、教職員一同、心一つにして、一人一人の生徒に寄り添い、日々教育活動に邁進する所存です。

最後になりましたが、檀友会のご健康をお祈りするとともに、変わらぬ本校へのご支援をお願いいたします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆  
**同窓会からのお願い**  
 (通年用)  
 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

- 今年度も「檀友」を発行することが出来ました。増加する費用を何とか切り詰めて編集をしておりますが、皆様のご支援が必要です。同封の「賛助金振込み用紙」で1口2千円～(何口でも)のご協力をお願い致します。
- なお、宛先不明で返送されてきた方、受け取り拒否の方への発送は致しません。お気付きの際はご一報ください。
- 広告掲載料は1万円からとなります。関係者様のご協力を宜しくお願い致します。

恩師 西本辰雄先生  
よりご投稿頂きました  
平成2年〜平成10年の間  
ご教導を賜りました

「苦難のSSR(読書)」

西本辰雄



早春の風が漂う、千塚古墳に囲まれた白亜の校舎、玄閣上の校舎

から吹奏楽の音色が私を迎えてくれたあの日を今も覚えている。9年間お世話になり多くの思い出がある。一番の思い出は「SSR」読書である。1990年秋、恩師のK先生より「豊かな感性を育む教育とはどうあるのか」読書の必要性の教えを学んだ。「10分読書が奇跡を呼ぶ」本に出会い、読書の持つ大切さを実感した。冬季休暇前に全職員に課題が出された。来年の1年生の学校裁量量の1時間、何を実施するのかわからない。読書タイムを提案した。新聞を読む、学力講座などプランが出されたが、進捗実績を上げるために「英・数・国の学力講座」が決定された。しかし、十分な審議なく決定するのはおかしいとなり、最終的に読書タイムが学力講座の2案。会議は「檀原高校の教育はどうあるべきか」ということで白熱した議論が交わされた。私は篤い思いで読書の必要性を語った。数名の先生方も読書と人間教育の想いを語られた。一方で学力講座が大事、読書は総論賛成だが何も学校教育の中でする必要がない、50分読書を週に1回どうするのか等激しい議論となり、結論がでず、再度会議が行われた。定刻を過ぎては結論がでず、数年ぶりに多

数決て採決が行われ、僅差にて「読書タイム」が決定された。4月より実施、早速10分間読書の千葉の船橋高校へ見学。関西の教員を見学し具体的内容を検討した。悩みは読書に慣れない生徒に50分間読書をさせること、教師の対応。本の種類。寝ている生徒への指導など多くの問題がでた。「生徒の自主性に任せ、そつと見守る」を基本とした。

読書タイムを「SSR」と名付けた。Sustained(持続した) Silent(静かな) Reading(読書) 頭文字を取った「黙読」教えない与えない。求めない「読書の習慣化を図り、読書の喜びに気づかせることを目指した。導入曲「G線上のアリア」が流れ、これをBGとして「千余の丘に囲まれたわが檀原高校の学び舎において・・・皆さんの好奇心の誘いに身を任せ、素敵な本の世界を散歩してみよう」のナレーションが入り、黙読が始まる。学校全体が静寂に包まれる。終了2分前に「月の光」の曲が流れ、SSR記録ノートに読書した作品名や読書メモ等を自主的に記録してこの時間は終了。

音楽は貞貞先生、ナレーション文章は丸山先生、新1年生と保護者への説明資料は小林先生、各クラス10冊のSSR文庫の選定は司書の杉村先生や鈴木先生。企画に反対せず黙って見守ってください。一番の理解者である小泉校長。4月実施に向けて2・3月の重圧の中、苦悩の私に常に声をかけ、応援していただいた教頭の中西先生。短期間における各先生方の協力と温かい助言のお陰である。

4月から1年生に読書タイム「SSR」が始ま

たが、次年度には1年生の学校裁量「SSR」の時間が無くなってしまふ。3学期に会議が開かれ、又大議論が起こった。SSR継続が廃止か、1〜3学年で実施か。私は思い悩み会議直前に10分間読書の提唱者、船橋高校の林先生に電話した。「どんな形であっても、学校全体でできる方法を」と助言を受けた。毎週木曜朝20分間のSSRを提案した。朝のSHR消滅・昼休み時間短縮・G線上のアリアは不謹慎・読書は不要等意見が出されたが、アンケート結果を粘り強く訴えた。アンケートによればSSR継続が圧倒的に多く、「素晴らしい宝石に出会った」「これまでの違った世界に触れた」等の声。4月より全学年週1回のSSRが実施された。3学期末は感動した本をクラス全体で紹介するSSR/HRRの実施。本を通じて教師・生徒・保護者が語りあえる雰囲気が生まれた。このような取り組みは奈良県では初めてであり、県図書館研究発表により県下の学校へと広まり、全国図書館研究大会や近畿図書館研究大会等、各地の講演会にてSSRを紹介した。生徒が自ら学ぶ意欲を持ち、豊かな感性を育み、21世紀に生きて働く力を培ってくれればと願い実施した。心豊かに、たくましく生きる人間の育成について、篤く教育論を語った先生方の情熱のSSRが今も生徒たちの豊かな心に育っていることを願っている。



「SSR」朝の読書活動が評価され、読書意欲を高める優秀実践校として檀原高校が文部科学大臣表彰を受賞。

令和4年度 賛助金(敬称略)  
ありがたいご寄付ありがとうございました!

Table with 4 columns: Name, Position, Amount, and Date. Lists donors and their contributions to the school's activities.

Table with 4 columns: Name, Position, Amount, and Date. Lists donors and their contributions to the school's activities.



<b>国立大学 8</b>			<b>公立大学 9</b>		
大阪教育 2	愛媛 2		奈良県立医科 2	大阪公立 奈良県立	
奈良教育 和歌山 広島 長崎			福井県立 静岡県立 神戸市外国語 滋賀県立 三重短期		
関西大学 55	関西学院大学 2		同志社大学 20	立命館大学 13	
京都産業大学 39	近畿大学 101		龍谷大学 164	京都女子大学 6	
同志社女子大学 11	武庫川女子大学 10		畿央大学 87	関西外国語大学 25	
摂南 115	桃山学院 63		大和 28	大阪工業 26	

令和5年度  
(2023年度)  
**入試の主な  
進路結果**

**全国大会出場部活動**

- 考古学研究部**
  - 3年 小澤亮太、中井知世、竹中美咲希
  - 日本考古学協会主催 高校生ポスターセッション (第88回総合研究発表)
  - 令和4年5月29日 東京都新宿区 早稲田大学 戸山キャンパス
- 演劇部**
  - 3年 大野花菜
  - 第68回全国高等学校演劇大会
  - 第46回全国高等学校総合文化祭
  - 令和4年7月29日～8月2日 東京都 中野ZERO
- 書道部**
  - 3年 田中汐音
  - 第46回全国高等学校総合文化祭
  - 令和4年8月2日～3日 東京都美術館 かつしかシンフォニーヒルズ
- 吟詠剣詩舞部**
  - 3年 中井知世、竹中美咲、尾田千波 1年 吉川未紗、景山桜唯、福井菜々心
  - 第46回全国高等学校総合文化祭
  - 令和4年8月4日 東京都 江戸川区総合文化センター
- 日本拳法部**
  - 3年 矢敷いのり
  - 2年 小澤琉雅、三浦有稀、元屋颯真、川上結衣、吉田拓翔、中野賢世、小倉かこ、奥村光梨
  - 第67回全国高等学校日本拳法選手権大会 男女 個人・団体
  - 令和4年8月6日～7日
- 陸上競技部**
  - 1年 岡橋虎之介
  - 第53回U16 陸上競技大会 男子1000m
  - 令和4年10月21日～23日 愛媛県松山市 愛媛県総合運動公園
- 卓球部**
  - 1年 辻隼人
  - 第50回記念全国高等学校選抜卓球大会
  - 令和5年3月24日～27日 愛知県 スカイホール豊田
- 日本拳法部**
  - 2年 吉田拓翔、小澤琉雅、三浦有稀、元屋颯真、奥村光梨、川上結衣、中野賢世、小倉かこ
  - 1年 安田 成、喜多翔星、堀川遥人、松田昇太郎、鶴田 望、逸崎美乃、北口理心、森本香菜、岩田友葵、駒井寧々
  - 第27回全国高等学校日本拳法選手権大会 男女 個人・団体
  - 令和5年3月23、24日 大阪市立修道館

**人事異動**

◆ 退職・転出された先生方

氏名	教科	新所属
水口 智子	事務長	退職
勝田 一光	数 学	退職
中野 貴世子	図書館司書	退職
植村 泰行	理 科	国際高等学校・教頭
片岡 峻也	理 科	高取国際高等学校
越智 啓征	英 語	大和中央高等学校(通信制)
栗山 貴史	英 語	法隆寺国際高等学校
亀島 珠美	国 語	二階堂高等学校
越地 憲孝	国 語	(薩摩川内市立)川内北中学校
白石 幸恵	国 語	
千葉 恒義	国 語	添上高等学校
片川 明弘	地歴公民	奈良南高等学校
森口 拓弥	地歴公民	大和広陵高等学校
黒崎 佑宇	数 学	二階堂高等学校

◆ 転入された先生方

氏名	教科	前所属
上田 美鈴	事務長	榎原考古学研究所
芝 具子	地歴公民	高取国際高等学校
國井 祥平	理 科	奈良南高等学校
井上 善敬	理 科	御所実業高等学校
松川 慈	英 語	青翔中学校
日野山 虹太	国 語	
福西 隼人	数 学	
飯高 千春	英 語	
梶本 真未	地歴公民	五條高等学校
千森 由希	保健体育	香芝高等学校
萩野 きよみ	国 語	香芝高等学校
田中 真理亜	国 語	
三枝 ひな	数 学	
森脇 蓮	実習助手	吉野高等学校
杉江 知子	図書館司書	桜井高等学校

**卒業生の寄贈**

卒業記念として下記のことを寄贈しました。



テント

8組	7組	6組	5組	4組	3組	2組	1組	学年副代表	学年代表	同窓会学年 各クラス幹事 代表幹事
吉岡 真太郎	山本 愛	山田 迅	大西 千那	森本 侑大	西村 一真	葛村 圭太	末廣 優芽	前野 俊	石井 彩	
心	葵	理	莉	那	輝	帆	太	芽	介	

永くモヤモヤした時間もやっと全顔を見て話せるね  
友はいいね  
そして母校の50周年記念! あの方に会えればいいね  
同窓生の再会・近況・感想・詩・俳句・匿名OKです!  
寄稿お待ちしておりますよ～

編集後記

榎友会 1期 M-3

**株式会社 一ノ坪製作所**  
奈良県香芝市今泉625番地 〒639-0264  
TEL 0745-76-3181 FAX 0745-76-3187  
E-mail ebisutani@ichinotsubo.co.jp

取締役 製造部長  
**戎谷 献児**  
(第2期)

卒業生コーナー

「檀高から始まった夢への道」

33期生 原 裕太



私は地理学、農学、環境科学分野の研究者です。自然環境と人間生活が両立する社会のあり方、社会変容によって生じる諸課題の改善について、アジア各地のフィールドで探求しています。

檀高卒業後は金沢大学に進み、雪の洗礼を受けつつ学問の面白さに出会いました。さらに研究を深めたいと京都大学大学院に進学、世界中から院生が集う環境に身を置き、留学も経験しました。幸い国や民間財団から研究に集中できる支援を頂き、博士号を取得しました。修了後は京都大学の研究員、東京大学教養学部の教員等を経て、現在は東北大学災害科学国際研究所の教員(助教)として、国連、行政、地域の方々と連携して研究、教育、国際枠組の検討等に取り組んでいます。

今回ご縁を頂き過去を振り返ることで、檀高時代が大切な時間だったことを再確認できました。とはいえ、当時の私は体育や書道の方がよほど成績の良い、優等生とは程遠い生徒でした(笑)。ただ、教科書に書かれていない

ことを調べるのが好きで、とくに海外の砂漠化問題と現地の人々の暮らしに関心があった私は、センター試験の勉強時間を削り、一発を狙って当時出始めのAO入試(作文・面接)受験を画策します。忘れもしない高3の夏、色々な教科の先生が毎日のように作文の添削と面接練習に付き合ってくれました。結果はというと、平凡な高校生の考えはしれていて見事に不合格。それでも今の仕事に不可欠な書く力、話す力が養われたのは間違いありません。

その後、夏の特訓で嫌というほど私を知った担任の先生が、面白そうだと見つけてきてくれたのが、金沢大学に設立されて間もない学際的な地域創造型の中、理学と人文を横断する守備範囲の広い地理学の世界に魅了されました。実はあの高3の夏、面接練習に付き合ってくれた生物の先生が「君の興味なら地理学も良いのでは?」という言葉をかけてくれました。理系クラスにいた私がその意味を理解したのは後のことですが、あの夏思い描いた淡い興味は、現地の人々の協力を得て、実態を伴ったプロジェクトに成長し、人生をかけるテーマとなりました。全ては檀高での挑戦から始まっていたのです。

「創立50周年記念事業に向けて 皆様へのお願い」

皆様にはいつも賛助金へのご理解を賜り、振り込みをして頂きます事、誠にありがとうございます。さて、来たる令和6年の創立50周年記念事業に向け、同窓会としても、先生方や在校生の皆様と準備を始めています。そこで、会報誌第37号に同封されています賛助金の振り込み用紙につきましては事業が終了する年度まで、「創立50周年記念事業募金」に項目を改めさせて頂きたいと思ひます。

何卒ご理解を頂き、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

檀友会会長 吉藤行二

第2期生還暦記念第7回同窓会のご案内!

連絡

2024年5月19日(日) 受付11時~ 開始12時~  
場所 檀原神宮養正殿

詳細は2024年の年始に往復ハガキでご案内します。  
2期9組 亀田 浩二 090-3167-1916

こんな世の中だからこそ、真面目に遊びます。

OOKINI

P.GROUP co.,ltd.



23期生 代表取締役 玉井喜洋  
24期生 副社長取締役 森本尚志